



JFE

JFE システムズ 株式会社

株主のみなさまへ

2011年度上期ご報告

(2011年4月1日—2011年9月30日)



(朝日に映える富士山)

エクサ鉄鋼事業の統合とビジネスモデル改革により上期3年ぶりの黒字化を達成。



代表取締役社長 菊川 裕幸

2011年度上期の決算をふまえ、今後のJFEシステムズの取り組みについて代表取締役社長の菊川がお答えします。

Q1：2011年度上期決算について、どのように評価しますか？ また通期の見通しについてはいかがですか？

A1：当上期は東日本大震災の影響等が懸念されたものの、経常利益は132百万円、純利益は61百万円と、上期としては3年ぶりに黒字を達成しました。事業別には、統合による鉄鋼事業の収益増加に加え、製造流通向けやERP、BIシステム事業で収益を伸ばし、電子帳票や人事給与等のプロダクト事業においても順調に業績を残すことができました。

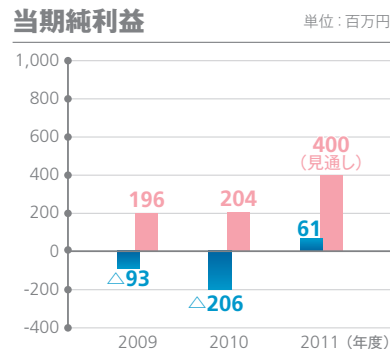
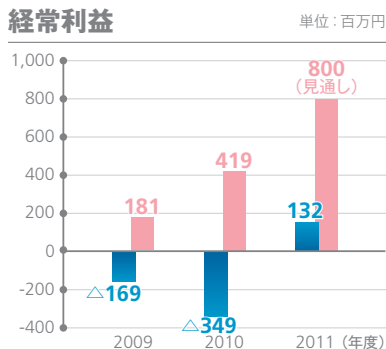
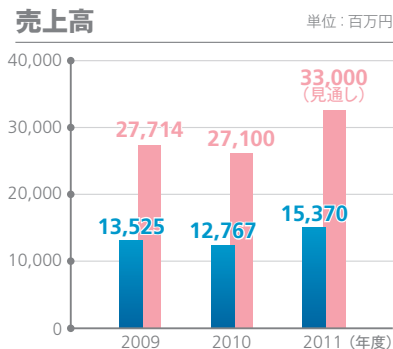
通期の見通しに関しても、経常利益は800百万円（当初見通し650百万円）、純利益は400百万円（同330百万円）と、上方修正させていただきました。しかしながら、急激な円高の進行やタイの水害による影響、欧州の経済不安など、事業環境は依然として不透明であり、計画達成に向けて一層の努力が必要と考えております。

Q2：本年4月にエクサの鉄鋼事業を承継しました。統合効果の実現に向けた取り組みはいかがですか？

A2：社員、役員合わせて311名が加わりました。統合にあたっては、統合の効果を早期に発現させるという意味のもと、人材の融合により両社の技術、知見が最大限活用できるような体制づくりを念頭におき、組織改正を実施しました。JFEスチールの本社を担当する東京事業所は組織の壁をとり払って一体化し、各製鉄所を担当する事業所に

連結財務ハイライト

■ 上期 ■ 通期



さらなる受注活動改革、競争力向上に向けた体質強化活動をひたむきに推進します。

関しても、京浜と千葉を東日本事業所、福山と倉敷を西日本事業所として、1人の所長のもとで運営する体制としました。また、「標準統一プロジェクト」を発足させ、システム開発方法や品質向上に関して、エクサとJFEシステムズ双方の優れた方式を取り入れ、より高度なものに仕上げていく活動を進めています。

Q3：本年4月にスタートした中期計画に沿った活動の進み具合はいかがですか？

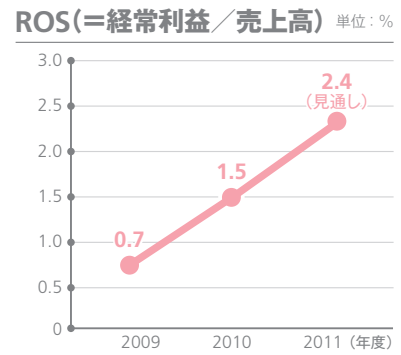
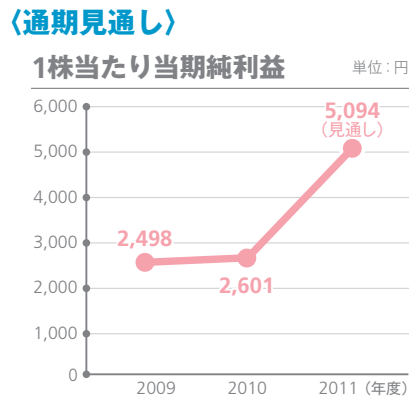
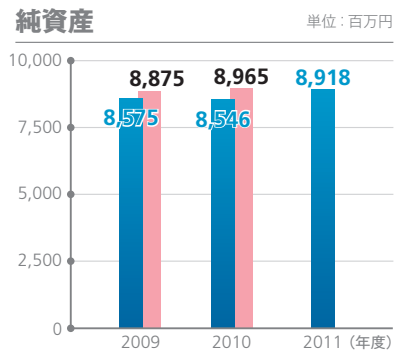
A3-1：受注力強化に関しては、お客様の事業規模や業種、当社との取引実績などをふまえ、当社の長が活かせるような戦略的な提案・アプローチを行なっております。また、グローバル化を進めるお客様のニーズを捉えるべく、原価・収益管理や企業間情報連携などの当社で実績のあるソリューションに加えてSCMやERPなどを増強し、ソリューションセットとして提案しています。今上期では既存の大手製造業のお客様向けに新規領域を広げるとともに、新規のお客様からも大型案件の受注、引合が増加するなど、成果が出つつあります。

A3-2：競争力強化に向けた課題設定にあたっては、「ブルーオーシャン戦略」をキーワードとしました。その基本は、自社の強み・特長を再認識し、差異化のポイント

を明確にすることであります。社内での議論に加えて、取引実績のないお客様からの助言や同業他社の情報を得るなどして、成長戦略課題を抽出してきました。また、お客様と一体となって経営課題を解決する仕組みを提案できるようになるために、人材育成のモデルづくりやローテーション計画、事業ごとに必要なカリキュラムの検討なども進めています。

A3-3：収益体質の強化に関して最も重点を置いたことは「事業部ごとのROS（売上高経常利益率）の追求」です。本年4月の組織改正では、食品ソリューションや人事給与ソリューションなどを組織として独立させ、事業部ごとの目標と責任をより明確にしました。また月次決算の時期を早め、損益管理のPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルの迅速化を図りました。事業部ごとに、ROS向上の活動を迅速に行なう仕組みが整ってきつつあり、収益向上に結びついたと感じています。

株主の皆様におかれましては、当社の取り組みについてご理解をいただき、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



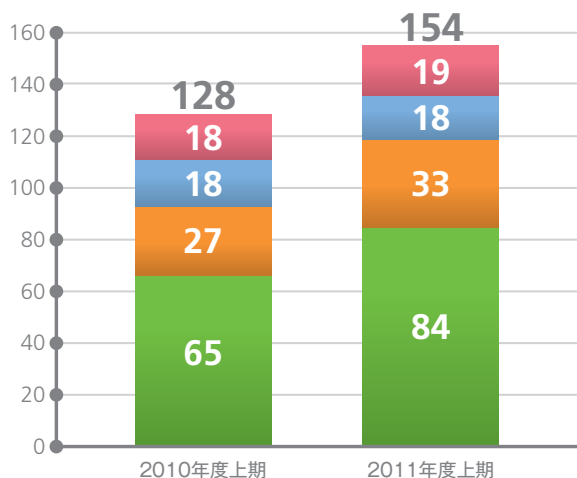
2011年度上期実績

3年ぶりに上期黒字化を達成

【売上高】154億円(前年同期比+26億円) 【経常利益】1.3億円(前年同期比+4.8億円)

売上高

(単位：億円)



■ 連結子会社寄与分 ■ 一般顧客向けSI事業
■ 製品・ソリューション事業 ■ 鉄鋼向け事業

製品・ソリューション事業

◎電子帳票、人事給与、BI(ビジネス・インテリジェンス)等で受注・売上を拡大

一般顧客向けSI事業

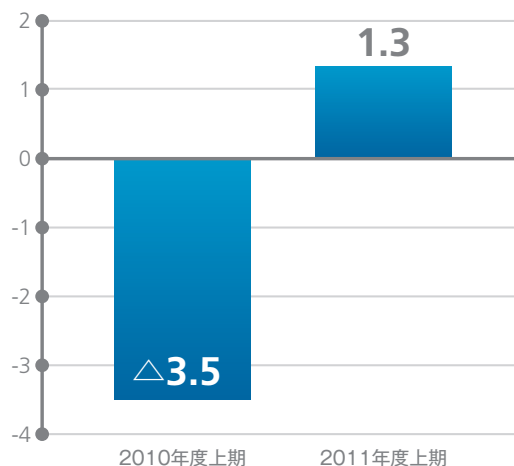
◎製造業および金融向けで新規顧客開拓や大手既存顧客での領域拡大に向けた取り組みにより売上高増加

鉄鋼向け事業

◎エクサ鉄鋼事業統合に伴い事業規模を拡大

経常利益

(単位：億円)



◎売上高増加・収益力の向上

◎鉄鋼事業所一体化運営や、事業収益管理の強化、収益管理サイクルのスピードアップによりコストダウンを実現

◎品質向上により不採算案件発生を抑止

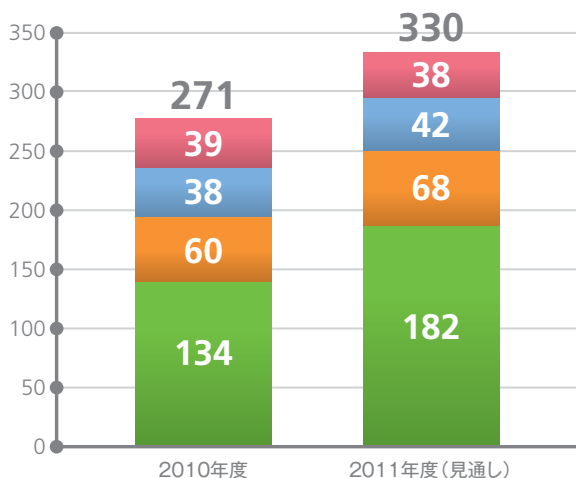
2011年度通期見通し

前期比収益倍増を確保できる見通し

【売上高】330億円(前期比+59億円) **【経常利益】8.0億円**(前期比+3.8億円) **【ROS】2.4%**(前期比+0.9ポイント)

売上高

(単位：億円)



■ 連結子会社寄与分 ■ 一般顧客向けSI事業
■ 製品・ソリューション事業 ■ 鉄鋼向け事業

製品・ソリューション事業

- ◎「ローコストERP」「グローバルSCM」に対応したソリューションの整備
- ◎原価、BI、EC等の自社固有の製品・ソリューションとSIの連携強化

一般顧客向けSI事業

- ◎大手既存顧客における領域拡大
- ◎新たなSI拡販モデルの展開による新規顧客の開拓

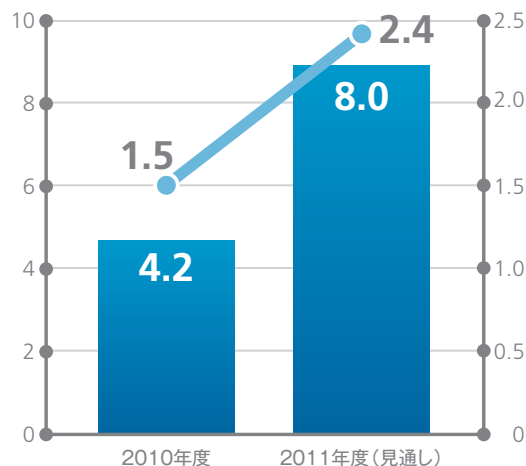
鉄鋼向け事業

- ◎鉄鋼事業統合効果を活かした企画提案力強化

経常利益およびROS(=経常利益/売上高)

(単位：億円)

(単位：%)



■ 経常利益 ● ROS

- ◎システムの品質・信頼性向上の追求
- ◎顧客満足度・信頼性を向上
- ◎不採算案件の削減による収益向上
- ◎事業部別収益責任の明確化と収益管理サイクルのスピードアップ

2011年度
通期見通し
(連結)

売上高 330億円(前期比+59億円)

経常利益 8.0億円(前期比+3.8億円)

重点課題

- 1 受注活動の改革(戦略的営業アプローチの推進)
- 2 競争力強化テーマの推進
- 3 収益体質強化活動の推進

1 受注活動の改革(戦略的営業アプローチの推進)

大手既存顧客における領域拡大

- 既存担当領域で定着した信頼感をベースに、企画構想フェーズから参画
- 全社からのローテーション・応援体制を強化し、顧客の要請に的確かつ迅速に対応

大手自動車メーカ、運輸会社等で新規案件を獲得 ▶ 既存顧客での領域拡大

新たなSI拡販モデルの展開による新規顧客の開拓

- 60数社をリストアップし巡回営業を推進(今期は中堅非鉄、プロセス等に重点)
- 「ローコストERP」、「グローバルSCM」に対応したソリューションを整備
- 原価、BI、EC等の自社固有プロダクト・ソリューションとSIの連携を強化

グローバル展開を行なう中堅製造業からの引合増 ▶ 新規大型案件を受注

製造流通
ソリューションセット

基幹系

SCM系

最適化

SCM

原価・収益

EC (企業間情報連携)

調達

EAI

ERP

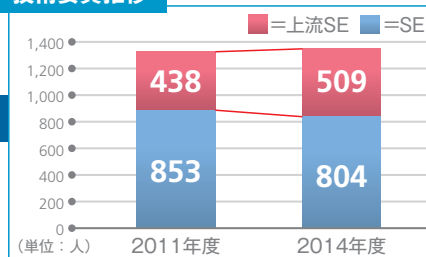
(会計、販売管理、生産管理、BI、ワークフロー等)

2 競争力強化テーマの推進

人材育成テーマ

- 上流(企画・提案)人材の育成・2011~2014年度で71名増強を計画
- 重点ソリューション・技術人材の育成・ERP、SCM、最適化等の技術者増強
- グローバル人材の育成

技術要員推移



成長施策テーマ

- 鉄鋼事業統合効果を活かした企画提案力強化
 - ・事業所間比較等による鉄鋼IT化企画提案力強化
 - ・鉄鋼ソリューションの一般顧客への展開
- SIソリューションのラインアップ強化
 - ・ERP、SCM、最適化等の製造流通ソリューション増強
 - ・金融ソリューションの探索、開発
- 次世代プロダクト・ソリューションの開発
 - ・電子帳票、食品等の次世代型商品開発
 - ・中長期視点で収益の柱となる新商品の検討
- 水平連携、M&A等

【2011年度~】
PJ発足→実行(一部継続検討)

(随時検討→実行)

3 収益体質強化活動の推進

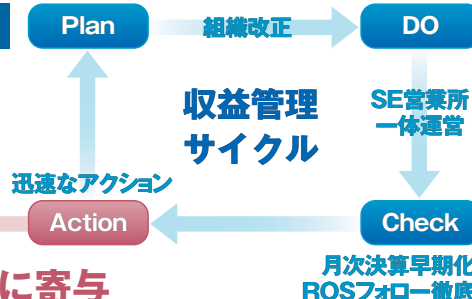
システムの品質・信頼性向上の追求

- 顧客のシステム化の本質的な目的・狙いの理解を徹底▶意識啓蒙、標準への反映
- エクサ、JFEシステムズ双方のすぐれた方式の取り込み・融合による、品質管理のレベルアップ
- 「リスクチェック▶案件監視▶組織的サポート」への愚直かつ継続的な取り組み

顧客満足度・信頼性の向上／不採算案件の削減による収益向上

事業部別収益責任の明確化と収益管理サイクルのスピードアップ

- 組織改正(2011年4月)▶事業部ごとの収益責任を明確化
 - ▶事業部別営業利益、ROS目標の月次フォローの徹底
- 顧客課題発掘型営業への転換(開発部門への営業権付与)
- 鉄鋼向け事業所一体運営の推進による業務効率化
- 月次決算の早期化による収益管理サイクルの短縮



事業部ごとのROS向上に向けた意識改革▶収益改善に寄与

2011年度上期連結財務諸表の概要

■ 連結貸借対照表

単位：百万円

	2010年度末 (3月31日)	2011年度上期末 (9月30日)
資産の部		
流動資産	9,618	9,683
固定資産		
有形固定資産	2,320	2,423
無形固定資産	2,149	2,628
投資その他の資産	2,025	2,351
固定資産合計	6,495	7,403
資産合計	16,113	17,086
負債の部		
流動負債	5,286	5,615
固定負債	1,861	2,552
負債合計	7,148	8,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,390	1,390
資本剰余金	1,959	1,959
利益剰余金	5,310	5,262
株主資本合計	8,661	8,613
その他の包括利益累計額	11	11
少数株主持分	292	293
純資産合計	8,965	8,918
負債純資産合計	16,113	17,086

■ 連結損益計算書

上期(4月1日～9月30日)／単位：百万円

	2010年度 上期	2011年度 上期
売上高	12,767	15,370
売上原価	10,908	12,751
売上総利益	1,859	2,619
販売費および一般管理費	2,225	2,440
営業損益	△366	178
営業外収益	34	18
営業外費用	17	64
経常損益	△349	132
税金等調整前当期純損益	△349	132
法人税、住民税および事業税	△142	65
法人税等調整額	8	2
少数株主損益調整前当期純損益	△214	65
少数株主損益	△8	3
当期純損益	△206	61

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

上期(4月1日～9月30日)／単位：百万円

	2010年度 上期	2011年度 上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,529	853
投資活動によるキャッシュ・フロー	△445	△964
財務活動によるキャッシュ・フロー	△302	△327
現金および現金同等物の増減額	781	△438
現金および現金同等物の期首残高	975	2,115
連結の範囲の変更に伴う現金および現金同等物の増減額	8	—
現金および現金同等物の四半期末残高	1,765	1,677

株主アンケートについて

本ページ記載のアンケートに関する回答を、同封の返信用はがきのアンケート回答欄にご記入いただき、お手数ですが、2011年12月20日(火)までにご投函くださいますようお願い申し上げます。
アンケートにご回答くださった方には、2012年の卓上カレンダーをご送付いたします。
なお、アンケートはがきによりご提供いただきました個人情報は、卓上カレンダーの発送のみに使用いたします。

Q1.年代

1.~30歳 2.~40歳 3.~50歳 4.~60歳 5.~70歳 6.71歳以上

Q2.当社株式の保有期間

1.半年未満 2.半年~1年未満 3.1年~2年未満 4.2年~3年未満 5.3年~5年未満 6.5年以上

Q3.当社のどのような情報をお知りになりたいですか。(複数回答可)

1.業績に関する説明 2.新製品・新技術 3.事業計画 4.強み・特長
5.経営方針 6.研究・開発内容 7.事業内容 8.業界情報 9.財務情報
10.その他(具体的に)

Q4.当社をお知りになったきっかけは何ですか。(複数回答可)

1.新聞(新聞名) 2.株式専門誌(専門誌名) 3.証券会社のセールス 4.インターネット検索
5.知人の紹介 6.取引関係 7.一般雑誌(雑誌名) 8.会社説明会
9.その他(具体的に)

Q5.当社株式の保有の理由についてお聞かせください。(重視しているもの1つ)

1.事業内容 2.業績 3.将来性 4.値上がり期待 5.配当利回り
6.その他(具体的に)

Q6.今後の当社株式保有のご予定についてお聞かせください。

1.継続保有 2.買い増し 3.売却(あるいは減らす) 4.未定
1.~3.の理由(具体的に)

Q7.“株主のみなさまへ”(お送りした小冊子)についてお聞かせください。

わかりやすさ 1.わかりやすい 2.わかりにくい
情報量 1.情報が多い 2.適切な量である 3.情報が少ない

Q8.当社ホームページ(<http://www.jfe-systems.com/>)についてお聞かせください。

閲覧について 1.見ている 2.見ていない

1.(ホームページを見ている)に○をつけた方に、ホームページの内容についてお聞きします。

わかりやすさ 1.わかりやすい 2.わかりにくい
情報量 1.情報が多い 2.適切な量である 3.情報が少ない

必要な情報へのたどり着きやすさ

1.たどり着きやすい 2.たどり着きにくい

IRページの充実度

1.情報が多い 2.適切な量である 3.情報が少ない

Q9.“株主のみなさまへ”、当社ホームページおよびその他当社に対するご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

■ 会社概要

名称(商号)

JFEシステムズ株式会社
JFE Systems, Inc.

本社所在地

〒130-0012
東京都墨田区太平四丁目1番3号
電話 03-5637-2100(代表)

設立

1983年9月1日

資本金

1,390,957千円

主な事業内容

情報システムのインテグレーション
および運用・保守等

従業員数

1,622名

子会社の状況

当社の議決権比率

KITシステムズ株式会社 67.5%
JSU, Inc. 100.0%

上場証券取引所

東京証券取引所第二部
(証券コード: 4832)

■ 経営体制

取締役

代表取締役社長	菊川 裕 幸
取 締 役	堀 田 善 一
取 締 役	島 山 廣 造
取 締 役	野 村 信 三
取 締 役	渡 部 尚 史
取 締 役	山 本 崇 博
取 締 役	西 川 廣
取 締 役	都 築 正 行

※取締役西川廣および都築正行の両氏は
社外取締役であります。

監査役

常 勤 監 査 役	若 林 莊 太 郎
常 勤 監 査 役	杉 充
監 査 役	岡 井 哲
監 査 役	原 田 敬 太

※監査役若林莊太郎および岡井哲の両氏は
社外監査役であります。

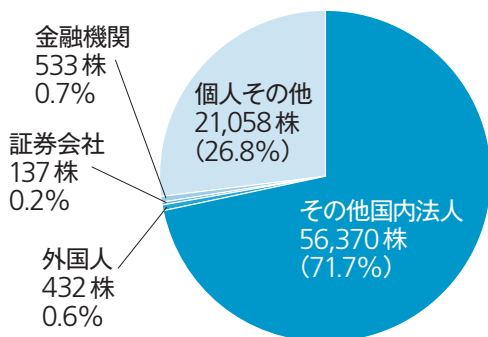
執行役員

社 長 (CEO)	菊川 裕 幸
専務執行役員	堀 田 善 一
専務執行役員	島 山 廣 造
常務執行役員	野 村 信 三
常務執行役員	渡 部 尚 史
常務執行役員	山 本 崇 博
常務執行役員	宮 原 一 昭
常務執行役員	福 村 聡
常務執行役員	上 條 巧
執 行 役 員	金 藤 秀 司
執 行 役 員	佐 々 木 富 雄
執 行 役 員	柏 原 大 造

■株式の状況

発行可能株式総数	338,050株
発行済株式総数	78,530株
株主数	1,941名

■所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	所有株式数	持株比率
JFEスチール株式会社	51,165株	65.2%
JFEシステムズ社員持株会	6,434株	8.2%
富士通株式会社	2,500株	3.2%
アトラス情報サービス株式会社	500株	0.6%
JFEアドバンテック株式会社	500株	0.6%
JFE電制株式会社	500株	0.6%
JFEメカニカル株式会社	500株	0.6%
中央三井信託銀行株式会社	500株	0.6%
JFE物流株式会社	500株	0.6%

株式事務のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当は毎年3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
株主名簿管理人 ※1	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は、中央三井信託銀行株式会社の 本店および全国各支店ならびに日本証券 代行株式会社の本店および全国各支店 で行っております。※2

お知らせ

※1 当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社は、関係者当局の許認可を前提に、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と2012年4月1日をもって合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。なお、2012年4月1日(日)は、株主名簿管理人の休業日につき、実際のお取扱いは、2012年4月2日(月)からとなります。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先・
電話照会先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所、電話番号の変更はございません)

※2 日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、2012年3月末をもって終了させていただきます。

事業所紹介

● **豊田事業所** **【一般顧客向けSI事業】**
愛知県豊田市
トヨタ自動車株式会社、
トヨタグループ・関連会社向け

● **中部事業所** **【鉄鋼向け事業】**
愛知県半田市
JFEスチール知多製造所、
JFEグループ企業向け

● **関西事業所** **【一般顧客向けSI事業】**
神戸市中央区
関西地区および中国地区向け

● **西日本事業所** **【鉄鋼向け事業】**
● **倉敷地区**
岡山県倉敷市
● **福山地区**
広島県福山市
JFEスチール西日本製鉄所、
JFEグループ企業向け

海外子会社

● **JSU, Inc.** 米国一般顧客
米国ニューヨーク州 向けSI事業

国内子会社

● **KITシステムズ株式会社** 一般顧客向けSI事業、
東京都台東区 情報通信機器販売、
付帯サービス

● **本社** **【一般顧客向けSI事業】**
東京都墨田区
製造流通顧客向け
金融顧客向け
【プロダクト・ソリューション事業】
食品ソリューション事業
プロダクト・ソリューション事業

● **幕張システムプラザ** **【一般顧客向けSI事業】**
千葉市美浜区
製造流通顧客向け
金融顧客向け
【プロダクト・ソリューション事業】
基盤ソリューション

● **東京事業所** **【鉄鋼向け事業】**
東京港区
JFEスチール本社、
JFEグループ企業向け

● **東日本事業所** **【鉄鋼向け事業】**
● **千葉地区**
千葉市中央区
JFEスチール東日本製鉄所、
JFEグループ企業向け

● **京浜地区**
川崎市川崎区

 **JFE システムズ 株式会社**
JFE

ご注意 本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となりうることをご告知おきます。